

早いもので、本年度最後の月となりました。どの学年もラストスパートに入りますが、卒業を迎える六年生にとつて、この三月は特別な意味を持つ時間です。面白いことに、この時期になると、今まで遊んだことのない仲間と放課後に遊ぶ姿をよく見かけます。おそらく、小学校の六年間を共に過ごした仲間という意識が芽生えるのでしょう。これをきっかけに「縁」が深まることも多々あります。

亀岡小学校は地域の学校ですから、たまたま同じ校区に住んでいて、同じ学校に通うことになったわけです。「縁あって」共に同じ時間を過ごすこととなった仲間といえるでしょう。そして、これから始まる新しい中学校という世界に胸を膨らませていることと思いますが、ここでも「縁あって」「新たな関わりが生まれることでしょう。」

小学校の六年間は、我々大人の六年

間以上に「縁あって」多くの人と関わり、多くのことを学び、たくさん経験を重ねてきました。特に「縁あって」人とのめぐり逢うという経験は大きな意味を持ちます。一人の人間として成長し、自己を形成していく上で欠かせないことが多いです。自分でも気づかなかった未知の自分、つまり自分に隠されていた才能を引き出すきっかけを作ってくれた人がいたら、それこそ生涯忘れられない出来事となり、「縁あって」めぐり逢ったことに感謝するかもしれません。

しかし、人と関わるにはかなりの勇氣がいります。また、常に新しい関わりを求める好奇心も必要です。そして何よりも私が一番大切にしてほしいことは、常に飾らない普段着のままの自分を示すことだと思っています。それ

令和7年3月号
編集発行人
京都府亀岡市内丸町15
亀岡市立亀岡小学校
飛田祥社
印刷所(株)天声社

「六年生を送る会」に向けての全校集会

「縁あって」素敵なめぐり逢いができたと思える時期となることを願っています。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、ここまで本校の教育推進にお力添えをいただき、本当にありがとうございます。残りの一か月を皆様と共に、子どもたちのために大切な時間にしていきたいと強く思っています。引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



学校行事

[illegible]

生活「たこあげあそび」

一年
ぼくがたこあげで一ばんたのしかったことは、おもいきりはしたことです。どうしてかというと、たかくとんだからです。

一年
わたしがたこあげで一ばんたのしかったことは、たこをとばしたことです。どうしてかというと、はしるのがたのしかったからです。

一年
わたしがたこあげで一ばんたのしかったことは、きょうそつしたことです。どうしてかというと、たのしみながらたかくとばせたからです。

一年
たこあげあそびをはじめました。たのしかったです。たこをとばすのがこんなにたのしいとおもいませんでした。いっしょうけんめいはしるとたかくとんでうれしかったです。

一年
たこがたかくとんでうれしかったです。もっともつとやりたいなとおもいました。たこは、はしつたらよくとぶことがわかりました。

一年
たこあげあそびは、たこのいともつてはしるの犬のさんばみたくておもしろかったです。ともだちといっばいわつてたのしかったです。

国語「見たこと、かんじたこと」

おふろ

二年
強く雨がふっているような

シャワー
ジャージャー雨がふっているみたい

シャワー
雨にぬれたみたいに

ビチャ ビチャ
手をちゃんとあらうみたいに

おちやみたくにあつて

そんなおふろがすきだよ

木は、長い

二年
木は、長い

だって
百年いきる木もある

雨のとき
かさにもなってくれる

木みたいに
長いきして

人のやくにたちたいな

九九むずかしかった

二年
九九さいしよ

むずかしかった

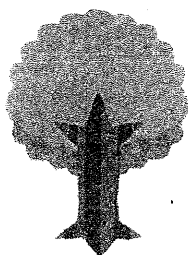
でも、しばらくしたら
九九じょうずになった

九九はむずかしいね

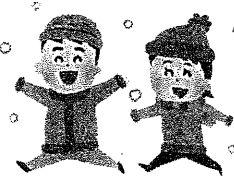
ゆきあそび

二年
家の前でゆきあそび

生クリームみたいに白いゆき
さわつたらとけた



またゆきが
いっぱい
いっぱい
ふつてほしいな



音訓かるたをつくらう

五・七・五のリズムにのせて、音読みも訓読みも使ったかるた作りに挑戦します。

三年
水泳後 友となかよく 水をのむ

三年
友だちと 宿にとまつて 宿題するよ

三年
あの魚 よく見たら 人魚だよ

三年
空高く 空きかなげて にげていく

三年
習字で 習う漢字は かんたん

三年
一つの宮に すごく大きい 宮ていがある

三年
港行く 出港するぞ 楽しみた

三年
消防士 消防団と 火を消すよ

三年
王様が 様子見てきた どうしてだ

三年
写真とり みんな笑顔で 写ってる

三年
神々の 神話を読んで あこがれた

国語「心が動いたことを言葉に」
日々の中で心を動かされたことを思い出して、言葉を選び、詩を作りました。

茶碗蒸し

四年
初めて食べた茶碗蒸し

初めは食べられるか
不安だった

食べてみたら
美味しすぎて

手が止まらん

小さな仕事人

四年
毎日働く仕事人

そんなにそんなに
意味はないと思っていた

実はとっても大事
酸素を運ぶ 小さな仕事人

それから 気にかかるようになった

原宿

四年
原宿 どの店も十一時や十二時から

夜遅いから
都会は朝早く 店はできない

亀岡 九時か九時半から

都会と田舎は

まちの朝がちがう

ラグビーの試合

四年

相手に抜かれて
じよじよに 負けていく

しんぼう強く 追いかけて
相手を 止める



亀岡小学校

四年

最初は どんな小学校が
不安だった

どんな人がいるか
どんな先生がいるか

でも 行ってみると
優しい人がいて

すぐに なれて
友達も できた

空中逆上がり

四年

最初は怖くて
力が入らない

友達応援の声が聞こえる
突然できた

嬉しくて 心が弾む



「六年生を送る会に向けて、先月、五年生が中心となり行った六年生を送る会への意気込みを記しました」

五年

ぼくが、六年生を送る会に向けて大切にしたいことは、亀岡小学校の一員として、最高の六年生を送る会にするために、本番までの間、感謝の気持ちを込めて、歌や呼びかけを一生懸命練習することです。

また、ぼくの役割はアーチ部なので、送る会が大成功するように、きれいなアーチを作って、六年生を中学校に送り出したいです。五年生みんな協力して六年生を送る会が成功するようにがんばります。

五年

六年生を送る会で、ぼくは、五年生として、六年生が来年、安心して中学生になれるように、感謝の気持ちを込めて応援の姿を見せたいです。下級生みんなにも、六年生が卒業しても、ぼく達が下級生を引っ張ることのできる、亀岡小学校のリーダーとしてふさわしい姿が見せられるようにがんばります。

そのために、五年生がみんな考えた演出を一つ一つ大切にして、取り組みたいです。

五年

私は、今年の六年生を送る会が、六年生にとって最高の思い出になるように、五年生として、全校のみんなを引っ張っていきたくです。五年生の私たち一人一人が「ありがとう」の気持ちを込めることで、六年生を送る会の思い出を六年生一人一人の心の「思い出のアルバム」に残してもらいたいです。

そのために、今までたくさん準備してきました。計画を立ててがんばってきたから、成功させたいです。

五年

ぼくは、来年最高学年になるので、六年生や下級生に「すごい」と思ってもらえるよう

な六年生を送る会をしたいと考えています。

そのために五年生の一員として、合唱や呼び掛けに感謝の気持ちを込めて発表をしたいと思っています。また、アーチ部のサブリーダーとして、六年生の入退場の演出を考えたり当日に向けて準備をしたりして、最高の六年生を送る会にしたいです。

五年

私は、亀岡小学校の一員として、六年生を送る会を盛り上げていきたいです。

また、五年生の一員として、六年生に対して私たちができるようになったことを伝えたい、見てもらいたいと思っています。

そして、制作部としてこれまでがんばって作成してきたたくさんの制作物を鮮やかに会場に飾り付けることで、六年生に楽しい気持ちで当日をむかえてもらいたいと思っています。

五年

ぼくは、六年生を送る会で六年生にたくさん感謝の気持ちを伝えて、涙が出そうになるくらい感動してもらいたいと思っています。

また、自分達のがんばりを見てもらおうことで、「五年生もやればできるんだ」と六年生に安心して中学校へ行ってもらいたいと思います。また、下級生には「こんな五年生になりたいな」と感じてもらえるような活動をしたいです。

そして、六年生を送る会本番に向けて、たくさんアイデアを出したり練習をしたりして準備を進めていきたいです。

自分達の学年の長所とは何か？

卒業までのカウントダウンが始まり、改めて自分達の学年について見つめ直しました。

六年

私は、六年生の良いところは四つあると思います。

一つ目は、雰囲気作りが上手なところです。例えば、全校集会で六年生から良い雰囲気を作ったり、声かけをしたりできています。前向きな雰囲気を作れているのが長所です。

二つ目は、礼儀を大切にしているところです。校外学習に行ったり、知らない人と関わったりする時、自分からあいさつを積極的に行うなどの礼儀ができていますし、仲が良い友達に対しても言葉遣いを気をつけて関わっているからです。

三つ目は、リーダー性があるところです。運動会の時に、六年生から元氣よく応援をして下級生を引っ張っていました。人任せにせず、自分達から声を出しているのが良いところだと思っています。

四つ目は、友達思いなところです。みんな仲が良いと思うし、一人も仲間外れを出していないところが良いところです。

私は改めて、六年生には良いところがたくさんあると感じました。そして、これらの良いところを卒業式まで無くさず伸ばしていきたいし、中学校でも活かしていきたいと思いました。また、私たち六年生の良いところを六年生だけのものにするのではなく、次の六年生や中学校で新しく同級生になる人達にも広めていくことが大切だと思いました。小学校卒業までの残りの日を大切にしていきたいと思っています。

六年

私が思う六年生の良いところは二つあります。

一つ目は、一〇九人の団結力がとても高いことです。例えば、二学期にあった「子どもの学びと育ち亀小祭」の練習の時に、音楽の先生にいただいたアドバイスを一〇九人全員が意識して取り組むことができていたこと。また、一〇〇人を超える大人数でも全員に平等に接している人がほとんどだということです。体育のバスケットボールだと、上手な人がチーム全体にボールを回して試合をするのができているなど、実感することが多いこと

感じました。誰に対しても平等に接することは、中学校やこれからの生活でも、とても大切なことだと思えます。この学年のみんなと一緒にいたから気がつくことができました。私以外の二〇八人にはとても感謝しています。二つ目は、ひとり一人が何事に対しても積極的なことです。他人事で考えているのではなく、自分事に考え行動しています。誰かが何かをなくしてしまったら、自分の持ち物を確認したり、誰かがケガをしたら保健室まで連れて行ったりすることができています。この一〇九人の良いところをふり返って、中学校でも生かしていければいいなと思っています。

六年

私が思う六年生の良いところは、素直さと周りを見て行動できるところだと思います。素直なところを挙げた理由は、先生にアドバイスをもらったときにその理由についてよく考え、行動に移すことが出来る行動力があると思ったからです。また、友達に「○○しよう。」と言われると返事などのリアクションを必ず取り、行動できるところもあるからです。この素直なところは、将来自分たちが成長するきっかけになると思うので続けていきたいです。次に周りを見て行動するところを挙げた理由は、クラスの中でたくさん配り物があると、それに気付き配ることができたり、授業が終わると率先してホワイトボードを消したりすることが出来ます。また、配膳台準備や片付けも友達がしていると、「手伝うよ。」と声をかけ、協力してさらに周りに広めていこうという姿があるからです。そんな六年生が私は、とてもかっこいいと思います。周りを見て行動する力も将来必ず必要になると思います。だからこそもっと周りに広めていきたいです。

六年生の良いところは他にもたくさんありますが、まだまだ課題点もあると思います。なので自分にできることは自分から進んで卒業まで頑張っていきたいです。

教師として大切にしていること

六年三組担任

クラスを担任する際、自分の中で毎回変わらない目指すクラス像が三つあります。①自分で考えて行動ができるクラス②自分の言いたいことを言えて、素の姿を出せるクラス③大人にも仲間にも礼儀正しく行動ができるクラスです。クラスによって特徴は様々ですが、他にも子ども達の様子によって目指す姿は増えていきますが、この三つは自分の中で不変的な三つです。全て、大人になっても必要になる「生きる力」につながる要素が入っていると考えられます。中でも、「自分で考えて行動ができるクラス」は亀岡小学校に赴任してから学んだ考え方です。

今から約五年前。私が亀岡小学校に来て二年目の出来事です。その年は新型コロナウィルスが急速に拡大し、学校が臨時休校になり、今までの日常が非日常となった年でした。五年生を担任していた私は、子ども達と会うことができない毎日に関わった日々と送っていたが、やつと休校が解除されても制限だらけの学校生活。特に、委員会活動は五年生の子達が最も楽しみにしていた新しい特別活動。クラスを超えての交流が禁止されている中、どんなことができるかを考える日々でした。

しかしある日、クラスの女の子二人が私の所にやって来て「先生、学校の廊下や階段がどんどん汚れてきているので掃除を自主的にしてもいいですか?」と聞いてきました。私はハッとしました。その子達にとっては委員会活動の形どころよりも、学校が汚れていることが最も優先すべき問題。自分達でできることは自分達ですればいいのではないかと、行動に移したのです。時間と場所を決め、それぞれが与えられた活動をするという従来の委員会活動のことに恥ずかしくなり、私は、自分の視野の狭さに恥ずかしくなり、活動に感銘を受けたクラスの他の子達も空き時間に自主的な掃除を始め、その活動は

他のクラスにも広がっていききました。ポジティブな行動の連鎖(正の連鎖)が発生したのです。自分で考えて行動した当時の五年生の子も達に私の心は動かされ、「こんな自立した子達をこれから育てたい。大人になっても自分で考えて生きていける子を育てたい。」と考えるようになりました。

現在担任している六年生の子達も素晴らしい自主性をもっています。自分達で考えて話し合ったり、決断したり、人のためになることを率先して行動できたりします。教師は、子ども達を教育する立場の人間ですが、同時に、子ども達から学ぶことも大切になければならない人間だと思っています。そして、その学ぶ瞬間こそが教師の醍醐味であり、幸せを感じる瞬間の一つであると考えています。実際に私は今まで、子ども達から多くのことを学び、教育につながっていききました。

これからも、子ども達に自分の考えを信念をもって伝え、子ども達の信念から学べる教師でありたいと思います。

生活に結びついた学びを目指して

研究推進主任

亀岡小学校では子どもたちが授業の中で、

①自ら問いを見い出すこと
②友だちと協働して解決しようとする
③その問いに自分なりの考えをもつこと
④実生活に生かそうとすること

を大切にしている実践を行ってきました。これらの力は、今、社会で求められている「問題解決能力」です。これから先の不確実な未来で、子どもたちが未知なる状況に遭遇したとき、自分の力で考え、よりよい判断をし、行動できる力を育てるためです。

小学校の学習は、そのどれもが生活の基盤となるものばかりです。中でも本校で研究を進めている社会科の学習は、一、二年生の生活科での学びを土台にして小学三年生から始まります。三年生では、主に自分たちが暮らす市町村や働く人々について学び、四年生では、主に都道府県の特徴や防災について学びます。五年生では、主に農業・水産業・工業といった産業や情報化社会について学び、六年生では、主に政治の仕組みや日本の歴史について学び、四年間をかけて学ぶ社会科は、環境、立場、背景などが異なる様々な人の暮らしを学ぶことで、多角的な視点をもつことができるきっかけとなります。それは、普段の生活でも、自分とは違う考え方や感じ方の人と出会ったとき、相手を理解したり自分を理解してもらおうとしたりする時、大きな力にもなるでしょう。

また、社会科だけでなく、学校で学んだことをどれだけ生活場面で思い浮かべることができるのかも重要です。例えば、五年生の家庭科では、みそ汁を作ります。実習では、大根・玉ねぎ・みそ・わかめの順で火を通します。子どもたちは一生懸命、順序よく手際よく調理します。でも大切なのは、家庭で、実をじゃがいも、豆腐、なめこ、ねぎなどに変えて作りたいと思ったとき、どのように準備をし、火を通す順番を考えることができるかどうかです。

これは、一例です。これから先、子どもたちが未知なる状況に遭遇したとき、これまで学校で培った力がきつと役に立つと信じて、これからは私たち教職員は、生活との結びつきを意識した学びを目指していきたいと思っています。

